



芸術鑑賞会
～寄席～

「一席 ご覧に入れましょう」

日本の伝統芸能を学ぶ！

寄席体験 僕らもやってみました！

「おいしそうなそばだ いただきます！ ふーふー あちち」

「ではいただきます しっかり持ち上げて…」

前座の落語から始まり、漫才や手品などの色物と呼ばれる演芸と、二ツ目の落語がテンポよく進んでいき、最後にお待ちかね真打ちが登場します。

学校寄席 十月二十八日(木)
寄席を初めて観るといっても多いのではないのでしょうか。寄席というと、なんとなく敷居が高く行きづらいつらいと思う人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。老若男女問わず、いつも会場は笑いに包まれているそうですよ。
寄席で行われるのは落語だけではなくありません。講談、漫才、漫談、手品、曲芸など、バラエティーに富んだプログラムになっています。



一学年
ワークショップ



11月25日(木)に一学年対象のワークショップが実施されました。職場体験で実際に自分が働いてみて、疑問に思ったこと、もっと知りたいと思うことを企業の方に相談できたでしょうか。地元の企業のことを知り、自分の将来のことについて考える良い機会になったのではないのでしょうか。

今回お越し下さったさくら電機産業(株)様、西日本エンジニアリング(株)様、社会福祉法人愛生会様、志布志東洋埠頭株式会社様、BTV(株)様、Farmers Villa Ume様、(有)そおりサイクルセンター様、志布志市役所様本当にお世話になりました。

私が、志布志高校に入学したのは、35年ほど前です。小学生の頃から、学校の先生になりたいと思っていたので、家から通える普通科の高校という理由で受験を決めました。おそらく他に高校を知らなかったのではないかなと思います。私の高校時代は、やはり勉強が中心だったので、今でも世界の国名と首都名が呪文のようにでてくるのは、自分自身でも本当に怖いなあと思っています。

部活動や生徒会活動、ボランティア活動にも積極的な生徒が多い志布志高校は、お菓子に例えると「1粒で2度おいしいアーモンドキャラメル」のようです。勉強だけでなく、人生を歩むための多くの術を学ぶことができます。志布志高校便りからもそのことがよくわかります。113年の伝統を持つ志布志高校を未来へつなぐのには、きっとあなたです。

志布志高校 教頭 平田千代子

